

耳公民館だより



第85号 令和8年9月



(サボテン：折り紙サークルさん)

今月、折り紙サークルさんが公民館の窓口に置いてくださった作品はサボテンですが、円筒形のとげとげなものしか思い浮かばない私などの目には新鮮にうつります。サボテンは取り入れた水をできるだけ逃さない仕組みを持っている乾燥に強い植物です。少雨でも豪雨でも生活用水が不足する人間にとってはうらやましいかぎりです。

星空観察会

盛況！ 8/6(木) 22名 8/20(木) 20名



夏休み恒例の「星空観察会」です。雨天はもちろん曇りでも中止なので不安はありましたが、両日とも天候に恵まれました。



天体望遠鏡で大きな月を見るのは圧巻！紙面に掲載できないのが残念です

健康づくりサークル「すみれ会」 放課後子ども教室に協力

耳公民館を中心に活動する「すみれ会」の皆さんが夏休みに「座布団バレー」で子どもたちと交流しました。



第2回 耳地区モルック大会

10月4日(日)
12:45～ 受付
13:15 スタート



(16:30 終了予定)

申し込み〆切 9月29日(火)

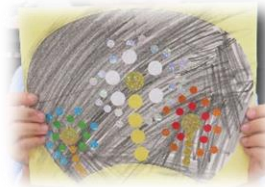
先着20組(1組 2～4名)

耳公民館までご連絡ください

立ち寄り型講座「ふらっと」ニュース

手作りうちわ

8/19(木) あいばる:8名



シールをはったり、絵を描いたり
アイデアがいっぱいです

9/10(木) 放課後子ども教室:7名



館長のつづやき

月あれこれ

星空観察会の日は、いつものことですが昼間から空をながめて「今晚の雲行きはどうか」と案じています。今年は無理かなと思うぐらいの曇り空だったのが、始まりが近づくとう舞台の幕が開くかのように雲が流れて、望遠鏡越しに美しい月の姿をながめることができました。

月は古くから日本人の生活や文化に深く結びついていて、月の満ち欠けは太陰暦を使っていたこともあって、農業や漁業の作業の目安となってきました。

満月や新月の頃は、多くの害虫が産卵するためその数日後の卵のふ化に合わせた農薬散布がいいとか、大潮で塩の満ち引きが最大になるため、フランクトンや小魚の動きが活発になり大型魚の食いがいいと言われてきました。

また、「いつも月夜に米の飯」ということわざがあって、明るい月夜とおいしい白米に一年中恵まれる満ち足りた暮らしを表しています。同名のタイトルの映画が制作され、福岡にはこの店名の居酒屋があることから、特別な思いが感じられますね。確かに近年の異常気象を見ても、月夜と米のご飯があたり前のようにかなう幸せではないことを実感します。気まぐれな自然を相手に作業に取り組んでおられる方々に感謝です。

四季の自然を表す「花鳥風月」も耳公民館のテーマで、耳地区の桜の写真展や星空観察会もその一環です。今回は番外編として、耳地区出身で茨城在住の野鳥愛好家の方から届いた美浜町でも姿を見る野鳥の写真を展示しています。「月並み」と言われないように、あの手この手でがんばります。